

日中韓三国協力研究所連合（N T C T）

第 1 回国別代表者会議

報告書

2016年10月

東アジア共同体評議会

## まえがき

この報告書は、2016年9月20日（火）～21日（水）の2日間にわたり東京で開催された日中韓三国協力研究所連合（NTCT）の第1回国別代表者会議の議論を取りまとめたものである。

NTCTは、2015年の日中韓外相会議の決定を受けて設立された政府公認のトラック2のシンクタンクのネットワークであり、日中韓3カ国の知的人材を動員して、北東アジアをはじめ世界の平和と安定に向けて知的な貢献をすることを目的としている。

今回はその第1回目の国別代表者会議が東京で開催されたところ、当評議会は、NTCTの国別代表である日本国際フォーラムを補佐し、今次会議を後援した。

この報告書は、NTCT国別代表者会議の内容を、当評議会議員を中心とする関係者に報告することを目的として、作成されたものである。ご参考になれば幸いである。

2016年10月  
東アジア共同体評議会  
会長 伊藤 憲一

# 目 次

1. プログラム.....	1
2. 議論の概要.....	1
(1) 鯉博行・外務省アジア大洋州局地域政策課長による開幕挨拶.....	1
(2) 今後のNTCTの運営について.....	1
3. 出席者リスト.....	3

さる2016年9月20日（火）から21日（水）にかけて、東京のANAインターコンチネンタルホテル東京を会場として、「日中韓三国協力研究所連合（NTCT）」の第1回国別代表者会議が開催された。NTCTは、日中韓三国政府によって指名された「国内調整窓口」が、国内の調整作業と対外的なコミュニケーションの円滑化に当たることとされており、日本側は日本国際フォーラム、中国側は中国外交学院、韓国側は韓国国立外交院が「国内調整窓口」となっている。

この度の会議は、日本国際フォーラム主催、日中韓三国協力事務局および東アジア共同体評議会後援のもとで開催され、日中韓3カ国および日中韓三国協力事務局よりシンクタンク関係者・有識者等18名が参加した。

## 1. プログラム

9月20日（水） <u>歓迎夕食会</u> 19:00～20:30 歓迎夕食会
9月21日（木） <u>第1回国別代表者会議</u> 9:30～9:40 開幕挨拶（総博行・外務省アジア大洋州局地域政策課長） 9:40～11:40 今後のNTCTの活動について

## 2. 議論の概要

### (1) 総博行・外務省アジア大洋州局地域政策課長による開幕挨拶

日中韓三国関係においては、さる8月24日に東京で日中韓外相会議が開催され、経済、持続可能な開発、文化、スポーツ、青年交流などの分野で協力を拡大していくことが確認されたところである。日中韓三国の間には、難しい問題が存在しているが、例えばサミットが開催されなかった数年の間も、閣僚や事務レベルで様々な分野における対話や協力は続けられてきた。こうした状況の中で、日中韓三国による公式のシンクタンク・ネットワークであるNTCTの第1回目の国別代表者会議が開かれることは大変喜ばしいことである。今後、NTCTより、トラック1に対して上記で述べたような様々な分野の協力に関して、提言が出されていくことを期待している。

### (2) 今後のNTCTの運営について

続いて、石垣泰司議長のもと、今後のNTCTの運営について協議が行われたところ、その概要は次のとおりであった。

#### (イ) NTCTの名称などについて

本シンクタンク・ネットワークの名称である「Network of Trilateral Cooperation Think-tanks : NTCT」については、中国が、昨年8月31日に長春で行った設立式典を同名称にて開催したことから、そのまま各国で使用されていたが、三国間で正式に承認が行

われたものではなかった。そのため、議長の日本より、改めて名称を「Network of Trilateral Cooperation Think-tanks : NTCT」とすることで異議ないか諮ったところ、異議がだされず、合意された。

また三国より、NTCT のメンバーを、それぞれの政府より指定された日本国際フォーラム (The Japan Forum on International Relations: JFIR)、中国外交学院 (Institute of Asian Studies, China Foreign Affairs University : CFAU)、韓国国立外交院 (Korea National Diplomatic Academy : KNDA) とし、それらを国別代表 (National Focal Point) と呼ぶことが合意された。

(ロ) NTCT の目的について

日本および中国より、APT のトラック 2 である NEAT が、すでに 10 年以上にわたって活動を続けており、参考にできることは踏襲すべきとの意見がだされた。そして、NEAT が APT 各国の知的人材を動員して東アジア地域協力に知的な支援を与えることを目的に活動していることを参考にし、NTCT の目的は「北東アジアをはじめとする世界の平和と繁栄をめざして、三国間協力における知的貢献をすることを目的とする (To support, promote, and develop the ideas of Trilateral cooperation with a view to achieving peace and prosperity in North East Asia and beyond.)」でどうかとの意見が出され、合意された。

(ハ) NTCT の活動について

(a) 韓国より、「すでに日中韓三国のシンクタンク同士で、NTCT とは別にネットワークが構築されているものがある。たとえば私ども KNDA は、数年前から、日本および中国の別の研究機関とネットワークを築き、毎年研究会を開催するなどの活動を行っている。これらの既存のネットワークによる活動と NTCT の活動の棲み分けをどのように行うべきか」との発言がなされた。

(b) これに対して、日本および中国より「確かに日中韓三国のシンクタンク同士の間には、すでに存在している民間のネットワークがある。ただこれらのネットワークと NTCT の最大の違いは、NTCT は 2015 年の日中韓外相会議で設立が承認された政府公認の唯一のトラック 2 だということである。そのため NTCT は、それら既存のネットワークとは全く別のものであり、必然的にその役割も政府と直結したものとなり、非常に重要な立場にあるといえよう」との返答がなされ、三国間で NTCT の存在意義の確認がなされた。

(c) 三国より、NTCT の主活動として、NTCT 内に作業部会を設置するなどして三国協力のための研究を行い、それらをもとに政策提言を作成してトラック 1 に提出していくべきとの意見がだされた。その具体的な方法については、今後協議していくことで合意された。

(d) NTCT における研究内容については、中国よりは三国間の機能的な協力について扱うべきこと、日中韓三国協力事務局よりは政治的な機微な問題を避けつつも三国間の諸課題にも取り組むべきであること、などが提起された。

(e) 日中韓三国協力事務局より、NTCT の研究活動について適宜サポートしていきたい旨表明がなされ、各国よりそれを歓迎する旨表明がなされた。

(二) NTCT の活動における資金について

中国からは、「中国は NTCT の活動として政府より活動予算を得ることができるので、今後の活動には支障がない」と表明されたが、日本および韓国からは、予算の確保が出来ているわけではない旨表明された。これに対し、日中韓三国協力事務局よりは、NTCT の活動を適宜サポートしていきたい旨表明され、さらに、例えば「日中韓三国協力基金」などのファンドの活用も検討すべきことなどが提起された。

(ホ) 今後の国別代表会議の開催について

三国より、年に1回持ち回りで開催するのが望ましいとの意見が出された。三国より、予算などの関係もあるので確約出来ないが、適宜そのペースで開催する方向で合意された。

### 3. 出席者リスト

**【China】**

WEI Ling Director, Institute of Asian Studies, China Foreign Affairs University (CFAU)  
ZHU Caihua Dean, School of International Economics, CFAU  
GUO Yanjun Deputy Director, Institute of Asian Studies, CFAU

**【Japan】**

ISHIGAKI Yasuji Trustee, The Japan Forum on International relations (JFIR) /  
President of the Council on East Asian Community (CEAC)  
WATANABE Mayu Executive Director, JFIR  
YANO Takuya Research Coordinator, JFIR  
KIKUCHI Yona Senior Research Fellow, JFIR  
KATSUKAWA Teruo Associate Research Fellow, JFIR

**【Korea】**

SHIN Dong-ik President, The Institute of Foreign Affairs and National Security (IFANS),  
Korea National Diplomatic Academy (KNDA)  
CHOE Wongi Professor, KNDA  
KIM Hankwon Professor, KNDA

In Alphabetical Order of Country Name

**【Trilateral Cooperation Secretariat (TCS)】**

LEE Jong-heon Deputy Secretary-General, Trilateral Cooperation Secretariat (TCS)  
UMEZAWA Akima Deputy Secretary-General, TCS  
TSUBOTA Kaoru Director of Political Affairs, TCS  
KIM Heejin Political Affairs Officer, TCS

ONOHAMA Kai      Political Affairs Officer, TCS

**【Guest】**

NAMAZU Hiroyuki    Director, Regional Policy Division, Asian and Oceanian Affairs Bureau,  
Ministry of Foreign Affairs of Japan

FUKUSHIMA Akiko    Councilor, JFIR / Professor, Aoyama Gakuin University

CC-J-IV-0037



## **東アジア共同体評議会**

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-12-1301  
[Tel] 03-3584-2193 [Fax] 03-3505-4406  
[URL] <http://www.ceac.jp> [Email] [ceac@ceac.jp](mailto:ceac@ceac.jp)